



行 地 集
岩 見 沢 駐 屯 地
編 集
司令 業務 室 広 報

月 間 目 標
冬 季 安 全
管 理 月 間

迎

新年を迎えて



諸兄の御苦勞に対し感謝致します。皆さんはどこで正月を迎えられましたか。当直、警衛、運よく休暇で故郷、自宅、白銀のスキー場など各人各様の感慨をもつて年頭に当り新たな抱負を持つた事でしょう。

駐屯地は、二十九年目に成ります。施設としては老年期に入り、あちこち修繕を要する年になりました。五十七年が当駐屯地再整備に向い画期的年となる様祈る次第です。

新年おめでとう。昨年は駐屯地全隊員の努力により極めて順調に推移でき

春

ませんが大きな眼で、ダンブ中隊の益々の発展を祈ります。群の目標は昨年に引き続き三つあります。

第一に、道北防衛の第一線を担うため日夜創意をこらし精強化する。第二に、戦技力を向上し勝つこと。第三に、個人の充実をはかり、群の精強の基礎を固めることです。特に個人の充実については、昔から修身、儒家、治國、平天下という言葉がある通りで、自らを鍛え家族と共に平和な家庭を築く事が即ち国家防衛につながるの認識に立ち大いに努力して欲しいと思います。

辛多い年である様に折念して、年頭の所感といたします。

岩見沢駐屯地司令
一等陸佐 佐藤 榮

明けまして

おめでとうございませう。皆さん決意も新たに新しい年を迎えられたことと思います。昨年は、軍事、社会、経済状勢等国際的にも、国内的にも厳しい状勢下にありました。本年も決して楽観は許されぬものと思ひます。そんな中で私達自衛官はどうしたらよいのか。難かしいことではありますが古い言葉に「針織に履く者は踵を成す」というのがあります。

これは裁縫をしている者は一針ずつ縫っているが、ついには大きなたれ幕をぬいあげるといふこと、小さい物でも集まればばかにならないことのとえ。小事を怠らずにつとめなければ大事をなすことはできないということでありませう。

警務だより

明けましておめでとうございませう。輝かしい新春をご家族おそろいで迎えのことと思ひます。さて、昨年をふり返つてみますと、北部方面隊において、いろいろな事故が発生しました。ちよつとした不注意から同僚の尊い命をなくした訓練事故。漫然と車両を運転していたため、他人を一生漣不具者にした交通事故。身分不相応な生活、又は遊びの果てに他人の物を盗んだりした職務事故。その態様は千差万別でありました。

事故を起した本人はもとよりその家族のかたがたは、一体どのようを気持でこの正月を迎えられたことでしょうか。これらの事故を分析してみますと、総てが「故意又は過失」によるものであります。過失とは、当然注意して認識しなければならぬ事を不注意によつて認識しないこととあります。したがつて我々が行動する場合、命令、規則、指示をよく守り細心の注意を払えば事故は未然に防止できるものと思ひます。反面私利私慾のため、故意に他人の物を盗む行為は、団体の生活を行ううえにおいて最も大切な相互の信頼関係を裏切るもので断じて許されるものではありません。今年も、岩見沢駐屯地から以上のような事故を一件も起さないよう各人一人一人が気をつけて明るい部隊を築き上げていただきたいと思ひます。

岩見沢駐屯地業務隊長
二等陸佐 酒井 嘉三

シートベルトは あなたの命綱

決意

わたくしは、自衛隊に入隊して早や三年が過ぎようとしていまも高校を卒業しすぐ入隊したころは自分が日本の国を守るという誇りと、自分の生がいの仕事にしようと思気揚揚としていたものでした。

一般曹候補の試験に二度アタック二度目は一次通過を果たしましたが、二次試験で不合格となり挫折を感じました。また、陸曹候補生も受験したのですが、これもた不合格となりました。しかし、わたくしは、次の試験は、かならず候補生に指定を受け、次の自衛隊を担う陸曹になれるようがんばりたいと堅く決意しております。



「施設科隊員として」

自衛隊に入隊して、真駒内での前期教育を終え、現在、岩見沢の第十二施設群新隊員教育隊で約3カ月の後期教育を受けることになりました。

後期教育も早や3週間が過ぎ、前期訓練と違って施設科専門の教育や、朝の間稽古、そして体力練習とつながる持続走が毎日あります。走ることはあまり得意ではないですが、走り終った後の満足感というか爽快感のようなものを最近感じるようになった来ました。今では、団体生活にも慣れ課業後は、自由な時間が多く、くつろ

本年三月は、ダンプ中隊は廃隊になりましたが、二年余装輪操縦手として、勤務してきた私にとつて他の中隊への移動は、多少の不安があります。だが、我々自衛官に課せられた責務は、どここの部隊にあつても同じであつて、部隊の一員として、その責務を全とうすることであると思ひます。ダンプ中隊で得た力を基礎にして更に一步前進一杯努力したいと思ひます。ダンブ車両中隊 前崎 幸治

誓ひ新たに

「決意」

私が自衛隊に入隊したのは、夏の暑い七月末のことです。最初はまわりがわからず、とまどうことばかりでしたが、今では自衛官として、少しは自信が持てるようになりました。前期教育を無事終了して、今は希望どおり施設科隊員として、がんばつていきます。施設科のことは前からいろいろ聞いていました。施設科全体的な教育が、興味深く、やる気充分な

「決意」

私は、入隊して早や四年目に入り、現在陸曹候補生にも指定され、これから入校等のため、体力練成、勉強に有意義な営内生活を送つていける。まだまだ陸士の気分が抜けない自分であるが、諸先輩の教えに従い、また「技」を磨き、自己の能力を最大限に発揮出来るよう、全力を尽くそうと思つていける。いざ実行に移すとすると生半可なことではない。実際自分が挫折しているときに、立ち直つて乗り越えてゆくか、もちろん、そうゆうとき、良き

毎日です。しかし、まだなれていないせいにか、物事ひとつひとつが思つたより出来なこともありますが、自分なりに施設科の重要性が少しづつわかつてきているので、立派な施設科隊員になるようがんばります。そして施設科の技術を身につけるとともに、厳しくなる訓練にうち勝てるような、忍耐力、体力、そして根性も同時に養つていきたいと思つております。

新隊員教育隊 沼正道



相談相手が必要だと思ひが、あくまで助言であり、最後は、自分との対決だと思ひます。そのためには、常に積極的の物事に取り組み、自己を反省し、見せかけではなく、内容の濃い生き方をしなければならぬと思ひます。そして名前のおり前向きに進んでいこうと思ひます。

三三七庵中 前 秀和



「説得力」

「説得力」という言葉には、ほとんどの方が興味を示します。も呼ばれたりすることもありませんが、どうも私したちは、説得力といいますが、なにが特別な技術、特殊な技能と考えがちですが、さうにやつかいなののは、「説得力」をどうも「押しつけ」と錯覚していることではないでしょうか。「何がなんでも、これだけは納得してもらわなくては」という心情はわかるのですが、これは、結局のところ、自分にとつて都合のいいことだけではないでしようか。

このことは、わたくしたちの身のまわりをふりかえれば、なるほどそりだと思えます。子供に勉強しろと注意する。あるいは、このお金をやるから我まんとしろという。何となくそれで説得したような気になり「やれやれ、骨がおれる」など平気でうそぶくのです。

世の中には、このように説得の名をかりた「押しつけ」がとても多く見られます。また、そういうことも必要なきもあつてしようし、しかし、こんなことをくり返していたら、どうしても被説得者にはウツブンがたまってきます。

ほんとうに納得しないままで、あることをしなくてはならぬというのはいやいやながら行動するわけですから、気分的にいいものではありせんし、だいいち行動することからも中途半ばにおわ

つてしまいます。納得ずくの「説得力」ができるかといふと、金力、権力、それに説得される場合の言葉などは、あまりあてになりません。

わたくしたちがほんとうに説得されるのは、説得者の「人間」によるのではないでしようか。「あの人が言うことなら、そうしようか」「きみがそこまで言うのなら、ひとつやつてみようじやないか」つまり、信用信頼のおける人です。ひらたく言うと、好きな人間なのです。好きな人が言うことには、同調するけれども、そうでなければ、積極的になるなんてことは「きらいな人には協力しない」といふ、どうにもならない性癖があるのです。

人間は動物と違つてかなり理性的に行動するといいますが、まことに説得に関しては、非常に動物的、まあ、人間的にいつていいですけれど、理屈ではわりきれない行動をしてしまふようです。

「これだけ筋道立てて言えば、わかるはずなんだけれど」といふのは、このあたりの性格の事情によるものでしょう。



自衛官の妻となつて

自衛隊のことは何も知らない私に「自衛隊の人を」といふ話があり見合ひをする事になつた。父は「自衛隊は停年も早いし、相手の人も三十を過ぎてゐるから」とあまり気乗りしていませんでした。が、神様のイタズラでしよつか、いつの間にか話しがまとまり結婚することになり、それから早いもので、もう八年近くになりました。

結婚当時は周囲に知る人もなく、さびしい毎日でしたが、子供が一人出来、二人出来、今では小学校一年生を頭にも男ばかり四人の子供を抱え戦争みたいな毎日です。

飲酒考

忘年会、新年会と一年中で最も酒を飲む機会が多いシーズンである。アルコールが体内に入ると、脳の最も高等な働き、自己抑制などから順次下等なものへと麻ひされてゆく。抑制がとれて陽気に騒ぐうちはよいが、もつと飲めば運動機能がやられて足元がふらつき、コレツが回らなくなる。チヨット、ひつかけただけでも車の運転がだめなのは、ハンドルを持つ手はしつかりしていても、自己抑制がきかなくなり、危険な運転をするようになるからだ。

肝臓のアルコールを処理する能力と、神経系統の麻ひに抵抗する力

そんな忙がしい毎日の中にも主人から自衛隊のことでもいろいろと教えてもらい「国を守るといふことは大変だなあ」と思うと同時に主人の自衛官としての姿勢、考え方に、国を愛する信念を持つた「立派な人」だと思ひ、主人と結婚してよかつたと思つております。

このような家庭で育つた我が子四人、将来主人の後を継ぎ自衛官になつてほしいのが今の私の夢です。

本部中隊 長谷川三曹夫人 長谷川 節子



が人によつて異なるためといわれている。肝臓の処理能力、平均一杯弱)といわれており、このビツチでチビチビやればさほど酔わない。アルコールの血中濃度に比例するから、ある程度まで飲んだらチビチビに切換えるのが上手な飲み方といえる。その一線を越えると泥酔、二日酔いのコースをたどる。二日酔いの頭痛は、アルコールの血管拡張作用によるものともいわれ、濃いお茶やコーヒーを摂取すると、ある程度効果がある。吐き気は健胃錠でも飲んで我慢するしかない。結局二日酔いを治すには、前夜の飲み過ぎを後悔しながら、すい眠をとるしか方法はない。